

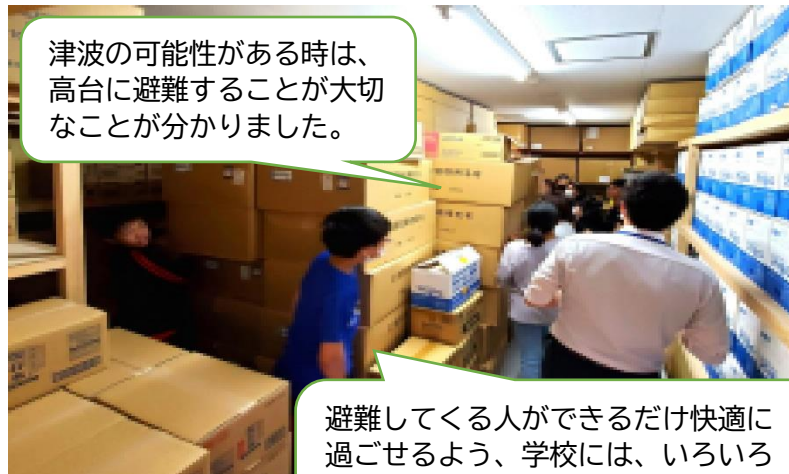
小学校

避難所での生活に必要なことを考えよう

子どもたちの学び

- ・古平町で予想される自然災害（津波等）について学ぶとともに、避難所となっている学校に備わっている防災備品にどのようなものがあるのかを知り、自分たちができることを考えました。

実践① 古平町の自然災害の特徴と備えを知る



津波の可能性がある時は、高台に避難することが大切なことが分かりました。

避難してくる人ができるだけ快適に過ごせるよう、学校には、いろいろな防災備品が準備されていることが分かりました。

自分たちの住む地域の自然災害の特徴を知り、実際に起きた場合の状況や、自分たちが取るべき行動などを考えることができるようにする。

- ・町の防災担当者の説明を聞き、自分たちが住む地域の自然災害の特徴について知る。
- ・備蓄されている防災備品を確認し、避難所での生活について考える。

●指導のポイント

- ・ハザードマップを使用し、町の災害危険箇所について確認する。
- ・防災備品庫を見学し、食料などの備蓄量、対応できる人数や日数などを確認する。

実践② 防災備品を体験する



段ボールベッドは、思ったより快適に寝られることが分かりました。



プライベートな空間を作ってくれれば、安心して休むことができそうです。

食料や飲料はもちろん、簡易トイレ、段ボールベッドや目隠しテントなど、避難生活においても、避難者の不安が軽減されるよう備蓄がされていること知る。

- ・段ボールベッドなどの作成手順を知り、自分たちができることを知る。
- ・実際に段ボールベッドや目隠しテントを体験することで、避難所での生活について考える。

●指導のポイント

- ・防災備品に実際に触れることで、避難時の生活を想像するとともに、自分たちができることを考え、行動することができるようにする。

●学習指導案

学 校 名	古平町立古平小学校		
対象学年・学級	5・6年生	対 象 児 童 数	26名
科目／单元名	特別活動 健康・安全体育的行事「避難所での生活」		

1 本時のねらい

- 地域の自然災害の特性を理解することができる。
- 避難所での生活を知り、他の人の役に立つ行動ができるようになる。

2 評価の観点

- 古平町の自然災害について理解することができる。
- 防災備品の役割を知り、準備の手伝いを行うことができる。

3 防災教育の実践

(1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・自然災害から身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る知識や技能を身に付けること。
- ・自ら進んで他の人や地域の安全を支えるために行動しようとする態度を養うこと。

(2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・自然災害発生時の避難生活を知り、自分たちができることを考える。

(3)教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・特別の教科 道徳「稲むらの火」「安全について考えよう」との関連を図る。
- ・第6学年 社会科「災害からわたしたちを守る政治」との関連を図る。

(4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・町の防災担当者から、古平町の自然災害について説明をしてもらう。
- ・備蓄された防災備品を知り、活用方法について学ぶ。

4 学習の展開

過 程	主な活動
○導入 ・避難訓練の振り返り ・課題の発見	避難訓練の様子を振り返ろう。 ・地震を想定した避難訓練で、高台まで走って避難したことを想起する。 ・町の防災担当者から、古平町で想定される自然災害（津波等）についての話を聞き、ハザードマップを使用して町の災害危険箇所について確認するとともに、災害発生時の避難生活について考える。
○展開 ・課題解決に向けた実践	備蓄されている防災備品について知り、避難所での生活について考えよう。 ・校内の防災備品庫を見学し、避難所での生活に必要なものが用意されていることを知る。 ・段ボールベッドや目隠しテントなどを体験し、避難所での生活について考える。
○まとめ ・発表 ・学習の振り返り	避難所の生活で大切なことや自分たちのできることについて整理しよう。 ・避難所での生活を送るために大切なことについて発表する。 ・避難所で自分たちのできることについてまとめる。 ・本時の学習を振り返る。

小学校

災害から命を守るために

災害を知り、避難する学習

子どもたちの学び

- ・地震や津波などの災害による被害がどのようなものかを学び、災害から自分や家族の命を守るために主体的に判断し、状況に応じて最適な行動をとることが大切であることに気付きました。

演習 被害を知り、どのように行動するか紙上避難する



資料映像を見て水害、津波の被害を知り、町が作成したハザードマップ（津波編）を活用し、自宅からの避難経路を確認する。

「津波の被害の凄さを知ってびっくりした。」「津波がきたらどの道を通って逃げるか考えておいた方が良かった。」

●指導のポイント

- ・NHKから提供を受けた動画や写真から、津波や水害によって起こる被害や影響を知る。
- ・ハザードマップを活用し、自宅から避難場所への適切な経路を考え、グループで話し合う。

- ・動画や写真を活用することにより、実際に津波が発生した場合の被害や危険性について視覚的に理解できるようにする。
- ・適切な経路を考えることにより、状況に応じて行動することの大切さを感じることができるようにする。

体験・講話 AR(拡張現実)やアナウンサーの講話を聞き、避難の必要性を実感する



「水の流れが急だし、濁っていて見えにくくなるので大変だと思った。」「いろいろなものが流れてくるので、危ないと思った。」「避難をする時は、ものが流れてくることも考えないといけないと感じた。」

AR(拡張現実)を活用した浸水体験や、NHKのアナウンサーによる災害に関する講話を聞くことで津波や水害の被害を体験的に学び、避難の必要性について考える。

●指導のポイント

- ・AR(拡張現実)を活用し、浸水時に想定される被害を体験的に学ぶ。
- ・NHKのアナウンサーによる講話を聞き、実際の災害時の呼びかけを知り、避難の必要性を考える。

- ・AR(拡張現実)を活用することにより、浸水時に想定される被害について、体験的に学ぶことができるようにする。
- ・NHKと連携することにより、災害時における報道機関による避難の呼びかけなどを体験できるようにする。

●学習指導案

学 校 名	新冠町立新冠小学校・新冠町立朝日小学校		
対象学年・学級	第5学年	対 象 児 童 数	44 名
科目／単元名	理科「流れる水のはたらき」		

1 本時のねらい

○雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により、土地の様子が大きく変化する場合があります。このことについて知る。

2 評価の観点

○雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により、土地の様子が大きく変化する場合があります。このことについて理解している。

3 防災教育の実践

(1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し、国民生活を守るために国や道などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること
- ・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害や状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること

(2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・NHKや役場防災担当と連携してAR（拡張現実）体験や講話、町が作成したハザードマップを活用し、紙上避難などを行うことにより、命を守るための行動を知り、実践できる力を養う。

(3)教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・社会科「国土の自然とともに生きる」と結び付け、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることへの理解を深める。

(4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・町防災担当やNHKと連携し、災害時の行動について講話してもらう。
- ・地域参観日に実施し、保護者や地域住民に公開して一緒に講話を聞いてもらう。

4 学習の展開

過 程	主な活動
○導入 ・理科単元の振り返り ・AR（拡張現実）による災害体験	災害が私たちの暮らしに与える影響や被害について知ろう。 ・学習を振り返ったり映像資料を見たりして、災害の影響について知る。 ・AR（拡張現実）による災害体験を通して実際の被害や避難の難しさについて知る。
○展開 ・課題解決のための演習、講話	災害に対する具体的な行動や情報について知り、行動につなげよう。 ・自分たちが住む地域ではどうなるかハザードマップを見て避難経路を考え、紙上避難の体験を通して命を守る行動を考える。 ・NHKのアナウンサーによる講話を聞き、報道機関の避難への呼びかけや情報把握の大切さを知り、避難への心構えを考える。
○まとめ ・学習の振り返り	学習したことを振り返り、実際の避難や判断に結びつけよう。 ・災害の危険性を理解し、状況に応じ、主体的な経路を考えて行動することの重要性を振り返る。

小学校

音標小学校・音標保育所合同

「1日防災学校」

子どもたちの学び

- ・地震や津波災害の際に安全に避難する方法について理解することが出来ました。
- ・保育所や地域の方との合同避難訓練を通して、地域と連携した防災力を高めることの重要性について理解することができました。

実践① 安全で迅速な避難のための地域ぐるみ訓練、通報訓練（第6学年）



地域の人と合同で避難訓練を行うことで、自分の身は自分で守る（自助）、住民と協力して避難する（共助）について意識できるようにする。



- ・地震が起きたときの安全確保について体験的に学ぶ。
（猿のポーズやダンゴムシのポーズ）
- ・ガス漏れ発生で校舎に戻れない場合の避難経路を考え、避難する。
- ・幼児、車椅子の人の避難補助の方法を体験的に学ぶ。

●指導のポイント

- ・1日防災学校を通して、地域における避難行動について自分事として考えたり、体験的に学ぶ機会を設定することで、他者と協力して、適切に判断し行動したりできるようにする。

実践② 防災能力向上ワークショップ



意外と大きな波ができていました。実際の波は、もっと大きいと思いました。

津波発生装置の体験をすることで、実際に起きた際の被害について考えられるようにする。段ボールベッドを組み立てる体験を通し、避難所の様子について知ることができるようにする。

●指導のポイント

- ・関係機関の連携により、津波発生の仕組みや威力について学ぶ。
- ・友達と協力しながら段ボールベッドを組み立てる。

- ・関係機関と連携した体験活動を通して、自分が住んでいる場所に適した避難方法や、避難所運営の様子について理解できるようにする。

●学習指導案

学 校 名	枝幸町立音標小学校		
対象学年・学級	全学年	対 象 児 童 数	33 名
科目／単元名	〈特別活動〉音標小学校、町立保育園合同「1日防災学校」		

1 本時のねらい

- 地震や津波発生の際に、安全で迅速な避難ができるようになるとともに、地震と津波の特性を理解し、防災意識を高めることができる。
- 自分の身は自分で守る意識をもち、地震発生時の正しい避難方法を理解できる。
- 音標小学校と保育所が各関係機関の協力を得ながら、地域の防災力を高め、避難時の地域の関わりの重要性に気付くことができる。

2 評価の観点

- 地震と津波の特性を理解し、安全で迅速な非難の方法について考えている。
- 地震発生時の正しい避難方法を理解し、自分自身を守る行動をとっている。
- 避難時の地域のかかわりの重要性に気付き、園児や地域の人々との避難を行っている。

3 防災教育の実践

(1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・災害時に対応する防災意識を向上させ、地震発生時における対応を理解し、安全確保や避難の仕方を考えながら自分一人でも避難行動ができる力を身に付けること。

(2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・合同避難訓練と防災教室の2部構成で実施する。
- ・1部「合同避難訓練」は小学校と保育所にて同時刻に地震が発生し、避難時に小学校が使用不可能となった事態を想定した。別の避難施設である音標コミュニティ・センターへ避難する際、小学生が保育所の子どもたちや要配慮者を補助しながら避難する。
- ・2部「防災教室」は実験や体験活動を通して、自然災害への理解を深める。

(3)教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・第5学年、理科「地震や火山と災害」、社会「自然災害を防ぐ」

(4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・音標保育所、枝幸町役場防災課、枝幸警察署、音標消防団、音標自治会

4 学習の展開

過 程	主な活動
○導入 ・1日防災学校のねらいを把握する	地震が起こった時に、どのように避難をすればよいかを考えよう。 ・安全に避難するにはどのように行動すればよいか、これまでの学びを踏まえて考える。
○展開1 ・合同避難訓練	合同避難訓練で避難の仕方を実践しよう。 ・事前指導で学んだ安全確保の方法（教室内では机の下に入る、教室外では頭を守って丸くなる）を実践する。 ・教職員の指示に従い、避難をする。 ・高学年は、自分の身を守りつつ地域の人々や保育所の子どもたちの避難補助を行う。
○展開2 ・防災教室まとめ	津波の発生や仕組みについて理解しよう。 ・気象台の協力を得て、津波実験装置を使い、津波について学ぶ。 避難所設営について理解しよう。 ・段ボールベッドの組み立てなどを体験する。
○まとめ ・講話 ・学習の振り返り	地震が起きたときに、どのように避難すればよいか振り返ろう。 ・警察署の方の講話を聞き、避難訓練や防災学習を振り返る。